

新基地建設反対名護共同センターニュース

米議会有力者らに「辺野古反対」を伝える 県議会与党訪米団が要請行動で成果



訪問団は渡久地氏の他、仲宗根悟、西銘純恵、瀬長美佐雄、宮城一郎、山内末子の6県議。

米議会で大きな影響力を持つ米上院外交委員会のリッシュ委員長（共和党）補佐官、ペロニ下院議長補佐官らは訪米団の要請に熱心に耳を傾け、丁寧な対応があるなど成果を上げました。シンクタンクや有識者とも意見交換し、アジア・太平洋米国人労働者連合（APALA）とも交流しました。渡久地団長は、「新基地推進の立場の人も軟弱地盤を疑問に思っている。もっと問題点を明らかにすれば工事を止めることができる」と手応えを語りました。

米議会の有力議員が丁寧に対応

県議会与党訪米団（団長・渡久地修典議員、写真左から3人目）は、11月11～17日にニューヨークやワシントンでの日程を終えて帰国しました。ニューヨークの国連本部では国連軍縮担当上級代表にグテレス事務総長あての書簡を託し、ワシントンでは上下両院の16人の議員や補佐官と面談し、県議会が3月に採択した辺野古新基地工事の即時中止と普天間基地の閉鎖を求める決議を直接手渡すという目的を達成しました。

軟弱地盤など問題点明らかにすれば中止できる

「安里島ぐるみ」が首里城カンパも

那覇市の「安里・松川・大道島ぐるみの会」は、毎週月曜日の朝30分間、安里交差点で「辺野古新基地建設反対」などのパネルを掲げスタンディングを3年以上続けています。今月11日から首里城再建の協力を呼びかけるカンパも行っています。17日までの2回で市民から「よろしくお願いします」と約4万円のカンパが寄せられました。中には、中国人観光客が「沖縄と中国は昔から交流がある。早く再建してほしい」とカンパ



をしてくれ、スタンディング参加者が励まされる場面がありました。

座り込み現場を見て「元気が出た!」 岡山の障がい者とサポーターのツアー

「オール沖縄と連帯する岡山の会」の一行15人は19日、辺野古を訪れました。浜のテント前で共同センタースタッフからレクチャーを受け、ゲート前で座り込み行動を激励しました。一行は肢体障がい者3名、視覚障がい者、知的障がい者各1名と介助・支援者です。肢体障がいの男性は車いすから座り込む人々に拍手をし、大声で激励していました。帰り際に「みんなが頑張っている姿を見て自分も頑張ろう、と元気になりました!来てよかった」と興奮気味に話していました。



「百聞は一見に如かずだ!」

千葉・佐倉革新懇が沖縄ツアーで

千葉県佐倉革新懇の14人が、17～19日沖縄ツアーを行いました。名護共同センターで学習し、平和丸から辺野古を視察し高江住民の会を訪問しました。ある参加者は「辺野古は以前来たときと様変わりし、護岸ができていて怒りが沸いた。百聞は一見に如かず、ですね。これからでも中止させるために沖縄と連帯し千葉でも運動を進めていきたい」と話していました。



同革新懇は今年5月、名護共同センターの講師で学習会を行った結果、「次は現地に行きたい」との希望が出されツアーを具体化したものです。

「二見情話」大会 開く

大浦湾を望むわんさか大浦パーク(道の駅)で17日、毎年恒例の「二見情話大会」が同実行委員会の主催で開かれました。20組の男女がこの曲一曲を次から次へと歌いあげ、県内外から詰めかけた多くの観客を魅了しました。

「二見情話」は、DVD「美ら海辺野古」でも流れている哀愁たどよう名曲です。沖縄戦終結時、摩文仁から二見に移った照屋朝敏さんが、心優しく受け入れてくれた二見の人々への感謝をこめて創作したものです。今では日本全国で演奏され、愛唱されています。今年は、うるま市の儀間さんら2人が優勝に輝きました。

